

行政調査報告書

沼田市議会議長 様

令和6年 3月31日

会派外議員

氏名： 井上 弘

政務活動費を使用した行政調査について、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1	期 日	令和6年2月13日（火）
2	調 査 地	・神奈川県川崎市 ・東京都T K P 九段下神保町ビジネスセンター
3	調査事項	・かわさきゼロエミッション工業団地の取組について ・日本人の景観意識と景観政策について
4	参加議員	井上議員
5	調査概要	①調査目的、②調査内容等を記入（別紙で調査資料及び写真等を添付）
調査事項： 1. 神奈川県川崎市 ・ゼロエミッション工業団地の取組について ・エコタウン・ゼロエミッション ・川崎エコタウン構想策定の背景 ・団地内企業の魅力発信 ・ゼロエミッション工業団地の取組と成果 など 2. 東京都 ・景観政策について ・日本人の景観認識と景観政策		

6	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入
		・かわさきゼロエミッション工業団地の取組（神奈川県川崎市） 横塚産業団地の造成、企業誘致がこれから本格化していくにあたり、規模は違うが特徴を持った工業団地の取組を調査した。 公害で有名なまちから、ゼロエミッションの取組を進めていくに当たっての背景や国の補助金などについての説明を受けた。今は同様の補助金はないが、財源に乏しい沼田市としても、新しい取組を進めて、国の補助を得た上で特徴のある産業団地を目指すことも視野に入れても良いのではないかな。 水の確保のために、高度処理された下水処理水を活用するなど、できないから諦めるのではなく、できなくてもなんとしてもほかの方法を探すという姿勢こそ、これからの行政運営には必要になってくるのではないかな。 最後に、本視察で一番印象に残ったのが、説明をしてくれた伊藤事務局長だった。元川崎市の経済労働局長で、この工業団地に実際に関わってきた方だった。直接的な話はなかったが、説明中言葉を詰まらせる場面があり、団地の造成、販売等、川崎市の今後を左右するような事業の成否に関わることに相当な苦勞、困難があったことが察せられた。 もちろん規模は違うが、横塚産業団地も沼田市の今後を左右する最重要事業と言ってもいい事業である。未だ発掘調査中であり、造成、販売はこれからだが、市も議会も何があっても絶対成功させるとの覚悟を持って、事業推進に当たるべきだとの思いを新たにした。 ・日本人の景観意識と景観政策（東京都） パリの町並み等、ヨーロッパの景観が統一された町並みと、日本の現状の町並みを比較しながら景観についての講義を受けた。 文化的に、日本では公共空間を自分以外のものと捉えており、ヨーロッパでは公共空間はみんなのものとして捉えられているということだった。つまり、ヨーロッパでは公共空間は自分のものということになる。従って、自分のものである公共空間を居心地の良いものとするために多少の制限がかかっても、自分の空間が良くなるから問題にならない。しかし、日本では公共空間は自分のものではないから、自分に関係ない場所を良くするために自分の権利に制限がかけられることを問題視する人が多く、景観政策が難しいということになる。 また、都市国家、城郭都市として整備されてきており古いものを大事にするヨーロッパの文化と、規格に沿わず自然の地形に沿った整備をしてきており明治以降新しいものをどんどん取り入れるようになった日本の文化の違いがあり、文化的にも、日本では美しい町並み景観に対する意識が育たなかったのではないかと考える。 しかし、観光客誘致を考えたときには、景観を無視することはできない。無電柱化等の施策が景観にもたらす効果は大きいので、観光に力を入れるのであれば景観政策は重要になってくる。大事なのが景観に対する住民の意識であるならば、私権に制限を加えていくことよりも、現地の美しい町並みのイメージを示し住民の理解を得ていく必要がある。まず力を入れるべきはこの点であろう。 森林文化都市として、環境政策に力を入れていくのであれば、森林エリアと生活エリアを分けて、異なる美しさの景観を目指すのも大事であると考えている。